

アジア太平洋 6つの国と地域の中高生が
2分間の映像に「幸せ」をたくす国際ワークショップ
ピクチャー ハピネス オン アース
「Picture Happiness on Earth 2016-17」参加者募集
メディアアーティスト・落合陽一氏による特別講演が決定！

にっぽんか がくみらいかん 日本科学未来館 (略称: 未来館、館長: 毛利 衛) は、もうり まもる 国際ワークショップ「ピクチャー ハピネス オン アース Picture Happiness on Earth 2016-17」に参加する女子中高生の募集を、4月24日(月)より開始します。

この国際ワークショップは、日本の女子中高生約100人と、アジア太平洋地域の中高生が、「幸せ」をテーマに2分間の映像作品をつくりあげるもの。2016年11月から5ヶ月にわたって各地で制作されたシナリオをもとに、今回はその映像化に挑戦する日本の女子中高生を募集します。若手クリエイターの指導を受けながら、演出、デザイン、プログラミングに挑戦し、2分間の映像6作品を完成させます。作品は本年11月に、未来館の地球ディスプレイ「ジオ・コスモス」でお披露目します。

また今回のワークショップでは、メディアアーティストの落合陽一氏の特別講演が決定。自身の研究や作品の紹介をはじめ、テクノロジーが開く未来について、参加者にメッセージを送ります。

是非、貴媒体にてご取材、ご紹介いただけますようお願い申し上げます。


[募集概要]

名 称 Picture Happiness on Earth 2016-17 映像制作ワークショップ

開催期間 2017年7月22日(土)～11月12日(日) ※以下、AからCのうち、希望の日程を選んで応募

[日程A]2017年7月22日(土)、23日(日)、29日(土)、11月11日(土)、12日(日)

[日程B]2017年7月22日(土)、24日(月)、30日(日)、11月11日(土)、12日(日)

[日程C]2017年7月22日(土)、25日(火)、31日(月)、11月11日(土)、12日(日)

※落合陽一氏の特別講演は、2017年7月22日(土)日本科学未来館 7階 未来館ホールにて開催予定です。

対 象 女子中高生、もしくは13～18歳の女子

※未来館における5日間すべてのワークショップ(日本語)に参加可能な方に限ります。

応募方法 Picture Happiness on Earth 特設サイトの募集情報をご確認いただき、応募フォームからお申込ください。

募集人数 90名程度

募集期間 2017年4月24日(月)～6月16日(金) 17:00

参加費 無料

連携科学館 クエストコン - 国立科学技術センター(オーストラリア)、千葉市科学館(日本)、国立釜山科学館(韓国)、サイエンス・アライブ(ニュージーランド)、国立台湾科学教育館(台湾)、タイ国立科学博物館(タイ)

主催 日本科学未来館

協賛 ブルームバーグ エル・ピー(Bloomberg L.P.) **Bloomberg**

特設サイト http://www.miraikan.jst.go.jp/sp/picture_happiness/

| 一般からのお問い合わせ先 | ご取材・画像提供に関するお問い合わせ先 |
|--|---|
| 日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikan.jst.go.jp | 日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikan.jst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150 |

■Picture Happiness on Earth とは

「幸せってなんだろう？」をテーマに、アジア・太平洋地域の中高生と、日本の女子中高生がコラボレーションし、日本科学未来館の地球ディスプレイ「ジオ・コスモス」に映しだす映像作品をつくりあげるプロジェクトです。

今世紀中には、世界の人口は100億人に達すると予測されています。100億人が「幸せ」に暮らす未来を実現するために、いったい何が必要なのでしょう？ このワークショップでは、科学データを使った論理的な考え方や、クリエイティブな表現方法を学びながら、参加者が互いの価値観を共有し、未来の幸せのかたちを一緒に探っていきます。

■Picture Happiness on Earth 2016-17 の流れ

本ワークショップは、3つのプロセスで構成されています。

1. シナリオ制作ワークショップ[2016年11月～2017年3月（アジア・太平洋6つの国・地域の科学館）]

未来館でトレーニングを受けた各館のエducーター指導のもと、各国・地域の中高生それぞれが考える「幸せ」のかたちを、ジオ・コスモスの映像作品のシナリオとして表現します。地球に関するさまざまなデータにアクセスできる、「ジオ・スコープ」や「ジオ・パレット」などのツールを使い、データを用いた論理的な思考方法を学びながら、シナリオを完成させます。

2. 映像制作ワークショップ[2017年7月22日(土)～7月31日(月)のうち3日間（未来館）]

各国・地域で選ばれた6つの優秀シナリオをもとに、日本の女子中高生が、ジオ・コスモスに映しだす映像作品をつくりあげます。ワークショップでは、第一線で活躍するクリエイターから指導を受け、演出、デザイン、プログラミングなどを集中的に学びながら、制作にとりくみます。

3. プレゼンテーション[2017年11月11日(土)・12日(日)（未来館）]

シナリオを制作した6つの国と地域の中高生と、映像を制作した日本の女子中高生が一堂に会し、成果を日本語と英語でプレゼンテーションします。完成作品は、ジオ・コスモスの常設コンテンツとして上映します。

※今回募集するのは、2. 映像制作ワークショップ(3日間)と3. プレゼンテーション(2日間)の参加者です。

■特別講演

開催日:2017年7月22日(土) 開催場所:日本科学未来館 7階 未来館ホール



講師／落合陽一氏

(メディアアーティスト / 筑波大学 学長補佐・助教 Pixie Dust Technologies.inc CEO)

東京大学で博士号を取得後、2015年より筑波大学助教 デジタルネイチャー研究室を主宰。同年、自身の企業であるPixie Dust Technologies.incを創業。2017年より大阪芸術大学客員教授、デジタルハリウッド大学客員教授を兼務。視覚・聴覚・触覚を刺激し、よりリアルな存在感を提示する技術開発や研究、アート活動に従事。Prix Ars Electronica、EU STARTS Prize など、国内外で数多くの賞を受賞。

■主な講師陣



瀬賀誠一氏／映像・ビジュアル担当

(株式会社オムニバス・ジャパン / リードデジタルアーティスト)

3次元コンピュータグラフィックスを駆使したさまざまな形態の映像作品を制作。CM、映画などを中心に活動。日本科学未来館の3Dドームシアター映像作品「9次元からきた男」では、CG・VFXディレクターとして参画。



河上裕紀氏／映像・ビジュアル担当

(株式会社オムニバス・ジャパン / モーショングラフィックアーティスト)

映画やドラマのタイトルのモーショングラフィックのデザインや企業のCIなど、3次元コンピュータグラフィックスの制作、またその企画、演出も手掛ける。近年では、広告フェスティバル「ADFEST 2016」のオープニング映像や、日本科学未来館の3Dドームシアター映像作品「9次元からきた男」の制作に携わる。

※上記以外にも、10名の講師を予定しています。